

仏壇生産技術の改善研究

(規格仏壇の標準化について)

櫛 山 和 実

1. 目的

量産のための設備、技術の訓練も一応経験したので、本年度はそれを基礎にして更に塗装後の組立て法について、構造を研究し量産加工品の品質の向上を図ることを目的とする。

2. 仏壇製造業は183企業で、その中今回の研究対象企業は木地製造業の43企業である。

仏壇を塗装後組立てることは、塗装の作業性、品質に大きな影響があるのでその構造法をロックダウン方式にすることが最適と考えられ、仏壇の構成部品の細分化を研究した。即ち、現在の主力製品である15型について設計を行い試作をしたのであるが、ロックダウン化することで構造が複雑化し、加工が複雑になら

ぬように考慮した。

特に留意した点は、下地、上塗り塗料の厚さを1.5%にした点である。各工場において、それぞれ塗厚が一定しないので苦勞があったが、回を重ねる度に訓練され、この方法を全面的に採用されるようになった。

3. 成果

部品を水平の状態の下地、中塗、仕上塗りが出来るので塗装の品質が向上して来た。また、塗装場の繁雑も少くなり、能率も上り、今では全面的にこの方法で生産されている。

特に組立て場が従来より広がる欠点はあるが、製品置場は狭くても良い結果になる。

付加価値ある竹製品の研究

(大型花籠と壁掛け)

大 西 洋

目的

後進国の追上げによって竹製品業界は恐慌を来しており、このままでゆくと、数年以内に我が国をしのぐ産地になると思われる。

これに対抗するには、良質な素材を使い工

芸品的な感覚を強調した高級な竹製品を創作しなければ安値でしかも大量に輸入されている竹製品に押されることは必至である。これに対応するためには、製品のレベルアップをし付加価値の高い竹製品を研究、試作し業界